

発 言 通 告 書 要 旨 (1 枚目／全 2 枚)

氏 名 中川 敬雄

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)		物価高騰対応水道料金基本料金免除事業について 事業の内容について 事業の内容について詳細に示せ。	
	(2)		水道料金基本料金免除を選んだ理由について 物価高騰対策としては他にも給付金の支給、生活困窮世帯への直接支援など多様な手法がある。その中で水道料金基本料金の免除を選んだ理由について問う。 また、免除対象となる口径を家庭用途の小口径 13 ミリ、20 ミリ、25 ミリにした理由について問う。	
	(3)		集合住宅の場合について 比較的古い集合住宅では、大口径で給水して個別に配水して料金を徴収しているところも多いと思うが、そういった場合はどのように対応するのか。	
2	(1)		病院事業会計決算について 収支構造の分析と改善策について 全国の自治体病院はその 90%近くが赤字というデータがある。その赤字要因として、人件費や医療資材費の高騰、診療報酬改定による収入減、患者数減少による収入減などが指摘されている。 加賀市病院事業会計でも経常収支や純損益に影響が出ていると思われるが、加賀市ではどの要因が最も大きいのか。 また、今後の収支改善に向けた具体的な経営改善策について、所見を問う。	
	(2)		紹介受診重点医療機関の指定による影響と対応について 加賀市医療センターは、令和 5 年 8 月から紹介受診重点医療機関となったが、その結果として初診患者数や外来収入にどのような変化があったのか。 また、紹介状を持たない患者の受診が減る一方で、地域の診療所やクリニックとの役割分担が進んでいると考えられるが、病院経営面での収益確保や市民サービス維持にどのように対応しているのか。	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全2枚)

氏 名 中川 敬雄

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
	(3)		市民の安心を守る持続可能な医療体制について 医師不足や患者数減少に伴い、全国では病院の統廃合や診療科縮小の議論も進んでいると聞く。加賀市医療センターにおいても赤字体質の改善と持続可能な経営が課題であると思われるが、市として「地域医療の最後の砦」としての役割を維持するためにどのような中長期的ビジョンを持っているのか。方針を示せ。	
3			災害用備蓄品購入事業について 本年5月に公表された石川県地震被害想定避難所への避難者数(約24,000人)に対応するため、発災初日の避難時に必要な物資を追加で備蓄し、災害時に円滑に不足なく避難者に供給できるようにする、2日目以降は流通備蓄や支援物資で必要な物資を確保するとのことだが、果たしてこれで発災後の72時間乗り切れるのか疑問が残る。 発災初日は備蓄分、2日目以降は流通備蓄や支援物資を利用するということになった根拠について問う。 また、その備蓄量は膨大であり、備蓄品は消費期限がある。どのように管理・更新サイクルを確保していくのか。有効活用の仕組みはどうするのか、所見を問う。	
4			大規模災害時の他自治体の応援職員の受け入れについて 大地震のような大規模災害時には大変な混乱が起きる。災害対応にあたらなければいけない自治体職員自身が被災者である場合も多い。令和6年能登半島地震では、他自治体の応援職員の受け入れ体制が被災自治体の復旧を大きく左右すると輪島市長があるインタビューで答えている。 本市においても、応援職員を受け入れる拠点整備や、役割分担が必要であると思うが、所見を問う。	
5			エンジン01in加賀温泉について 加賀市合併20周年の記念でもある非常に大規模かつ興味深いイベントだが、現在のチケットの売れ行き等はどのような状況なのか。 また、この事業実施によって想定される効果はどのように考えているのか、所見を問う。	